

## 平成23年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

### 学力検査全体

- ① 学力検査は、5教科の総合得点（250点満点）の平均点が58%（145点）前後となることを目安に問題を作成した。
- ② 平均点は56.2%（140.4点）であり、予想をやや下回った。
- ③ 5教科の総合得点は、180点前後の層にピークがある分布となった。
- ④ 教科別の平均点は、次表の通りである。

### 教科別平均点等

受検者数（全・定の全教科受検者） 23年度 6,255人

満点	各教科 50点 (総合点 250点)			
	23年度(増減)	最高	最低	22年度(参考)
国語	28.0 (▲0.3)	47	0	28.3
数学	24.0 (▲2.5)	50	0	26.5
社会	30.8 (▲1.5)	50	0	32.3
英語	26.6 (▲0.7)	50	0	27.3
理科	31.0 (+2.5)	50	0	28.5
総合点	140.4 (▲2.5)	239	0	142.9

### 受検生へのメッセージ

日頃の学習では、全教科を通して、次のような点が大切である。

- ① 授業を大切に基礎的・基本的な事項をしっかり理解するとともに、それらを活用し、筋道を立てて考える力をつける。
- ② 問題の意味を正しく読み取り、考えたことを的確に表現する力をつける。
- ③ 社会の動きや身の回りで起こっている事柄にも興味関心を持ち、学習したことと関連づけて考えてみるようにする。

## 平成23年度香川県公立高等学校入学者選抜の学力検査の各教科概評

### 国 語

- ① 小説を読んで答える問題は全体によくできていたが、登場人物の心情を読み取り、表現する問題は、期待した正答率を下回った。
- ② 評論を読んで答える問題で、文章を正確に読み取り、その論旨を的確に表現する問題は、期待した正答率を下回った。
- ③ 漢字の書き取りの問題はよくできていたが、歴史的かなづかいや言葉の意味を問う問題は期待した正答率を下回った。
- ④ 作文は、「新しい図書館が使いやすく親しみやすいものになるための要望や意見」というテーマで出題したが、客観性のある理由説明が不十分なものが多かった。

### 数 学

- ① 数と式、数量関係についての基礎的・基本的な知識・技能が身についているかどうかをみる問題は全体的によくできていたが、新学習指導要領への移行措置により追加された内容に関する問題は、期待した正答率を下回った。
- ② 図形の計量についての問題は、期待した正答率を下回った。
- ③ 数量関係を文字を用いて式に表現する問題は、期待した正答率を上回った。
- ④ 証明問題は難易度が高い内容であるが、取り組もうとする姿勢がうかがえた。

### 社 会

- ① 公民、歴史、地理の3分野のうち、公民分野が最もよくできていた。
- ② 基本的な知識を問う問題はよくできていた。
- ③ 地理分野の問題で、表を読み取り、知識と関連付けて考える問題は、期待した正答率を下回った。
- ④ 身近な課題をテーマに論述する問題については、取り組もうとする姿勢がうかがえた。

### 英 語

- ① 会話でよく使われる基本的な表現に関する問題はよくできていた。
- ② 英語を聞いて答えを選ぶ問題はよくできていた。
- ③ 本文の内容を参考にして英文を書かせる問題は正答率が低かった。
- ④ 与えられた絵を見て自分の言葉で表現する問題は、語の綴りや文法の誤りが多かったものの、身に付けた知識を活用して取り組もうとする姿勢がうかがえた。

### 理 科

- ① 新学習指導要領への移行措置により追加された内容のうち、第1分野に関する問題は、期待した正答率を下回った。
- ② 基本的な用語を答える問題はよくできていた。
- ③ 地学分野で恒星の動きを問う問題は、基本的なものであったが、期待した正答率を下回った。
- ④ 化学分野でグラフをかく問題は、難易度の高いものであったが、期待した正答率を上回った。